

手放さないで思いやりの心

甲斐市立玉幡中学校三年 虎谷 咲良

今から三年ほど前、小学一年生の女の子の行方が分からなくなり、新聞やテレビで毎日搜索の様子が報道されていました。私が生活する近くの地域で起きた出来事だったので、驚きと悲しみにあふれました。そしてそのニュースが流れる度に、我が子を探し、インタビューに応じる母親の姿を目にしました。本当に可哀想で、一日も早くなんとか無事に見つかってほしいと祈らずにはいられませんでした。そして搜索の日々は続きましたが、その結果は無惨にも本人の死亡確認がされ、元気に帰ってきてほしいという願いは叶えられませんでした。私は映像で目にした母親の姿や本人の写真など様々なことが浮かび、この悲しい現実には家族の気持ちを思うと、胸が押しつぶされそうでした。

しかし、この出来事の裏側には、もう一つ別の問題が起こっていたのです。それは、母親を標的にしたネット上での誹謗中傷でした。私はそれを知り、本当にそんなひどいことをする人がいるのか信じられませんでした。悲しみに暮れる母親を犯人扱いし、SNSに「自首しろ、殺すぞ」などと書き込んだり、自宅の写真を勝手に撮影して載せたりする人もいたのです。母親は娘を探すためにSNSで協力を呼びかけました。すると、子供が行方不明になっているのにネットができる神経が分からないなどと、会ったこともない名前すら知らない大勢の人たちに攻撃されることとなってしまいました。自宅から現場を往復する日々を送りながら、心ない人々の言葉によって心をズタズタに傷つけられていたのです。進級の季節には、使われない新しい教科書に名前を書いていたという母親は、どんな気持ちで耐えていたのでしょうか。しかし、この事件に限らずネットでの誹謗や中傷の書き込みは跡を絶ちません。なぜこんなひどいことが起きてしまうのでしょうか。その原因を考えると、ネット上では良心のある人だけに発信するわけではなく、それを受け取る側の思いや考えは人それぞれであり、今回の場合も母親が自らネットに上げた写真などから「こんな時に不謹慎」などと様々な意見が出てきました。きっと行方不明の女の子を心配する強い気持ちから、批判などの書き込みにまで発展していったのではないかと考えます。その熱い思いをネットで拡散することこそが社会的正義であるように錯覚してしまうのかも知れません。民主主義の基本である自分の意見や思ったことを自由に表現できる言論の自由という意味を、それぞれ

が再確認する必要があると思います。自分の思い込みだけで、真実も分からないのに、人を傷つけることが許されるはずがありません。そんなことが許されてしまったら、自由の意味は全く違ってしまい、逆に保障されるはずの基本的な人権を侵していると思います。人の心の傷は、目に見えないので、それほど抵抗もなく行動に移してしまうのかもしれませんが。逆に、発信する側の立場で考えると、どんなことが言えるのでしょうか。ネットで情報を発信することにより、反対の意見をもつ人が必ずいることや誤解が生じたりしないかなどあらゆる観点から注意深くチェックすることが大切だと考えます。受け取る側の考え次第で、生じた小さな誤解がどんどん大きな誤解に発展していき、その拡散力は止められません。それはとても恐ろしいことです。そして多数の誹謗中傷は発信者を悩ませるものへと姿を変えていくのです。もちろん、誹謗中傷をしている側が悪いのですが、発信する側にも物事を簡潔に概要をまとめて情報提供する工夫は必要であり、意図の分からない写真を載せるなどということをやっつけるべきではありません。そうした行動が相手の誹謗中傷行為を誘発する原因になってしまうと思うからです。

今回、この問題を考えるにあたり、私はネットリテラシー検定という存在を初めて知りました。それは情報を正しく理解し、そして得た情報を適切に判断し運用できる能力を高めるためのものです。小さな頃からこのようなことをしっかり学習する機会を多くもてる環境づくりが、今後必要なのではないでしょうか。そしてなお発展を続けるであろうネット社会において、一番大切だと私が感じたこと。それはどんなに便利な機能を手に入れても、それと引き替えに、私たちは絶対に思いやりの心を手放してはならないということです。画面に打ち出された文字は自分の心の声であることを忘れてはなりません。ネットに心を支配されることなく上手に使い、知らないことを知り、人とのつながり、豊かな時間を増やしていく。そんな使い方ができたなら、ネットはきっと私たちに幸福をたくさん運んでくれると思います。